

The Sovereignty of Works on Paper

Selected Works from the Ishii Collection,
Art Collection of the University of Tsukuba

中村忠二+清宮質文+駒井哲郎+池田満寿夫+加納光於—5人の作家による28点の版画・モノタイプ・水彩画



清宮質文 《黒夜の鳥》 1981年 木版 14.0×17.5 cm

筑波大学所蔵
石井コレクション
特集展示

紙上の至高なるもの

2013年11月12日(火) - 12月1日(日) 筑波大学大学会館アートスペース
午前9時 - 午後5時 / 月曜日休館 / 入場無料 主催: 筑波大学芸術系 www.art.tsukuba.ac.jp

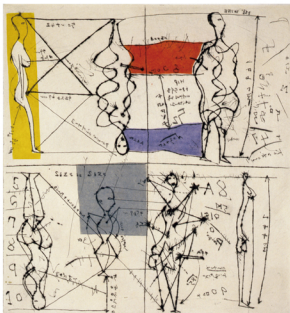
関連シンポジウム [筑波大学開学40+101周年記念事業] 「アート・リソースの活用と大学附属美術館の設置—開学50周年にむけたリサーチ・ユニヴァーシティ機能の拡充」 2013年11月16日(土) 午後1時-午後5時 筑波大学 5C棟・5C216教室 入場無料 [事前申込不要]

紙上の至高なるもの

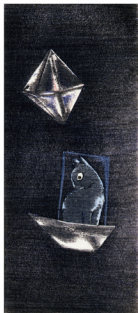
日本の現代版画シーンにおける草分け、駒井哲郎と池田満寿夫による銅版画。静謐な情調をたたえた清宮質文の木版画。画壇の権勢に与することなく孤高を保った中村忠二のモノタイプ作品。素材と技法、そして色彩への飽くなき探求心によって知的な造形遊戯をつづける加納光於の作品。5人の作り手による28点に通底する至高なるもの。それは、イメージを醸成する素材としての紙、そしてその紙のうえに顕在化された無二なるイメージの豊穡です。



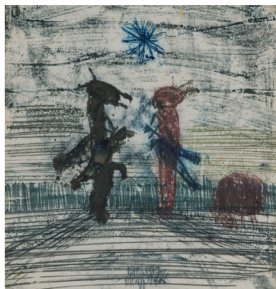
駒井哲郎 《黄色い家》 1960年
アクリラント 20.7×14.6 cm



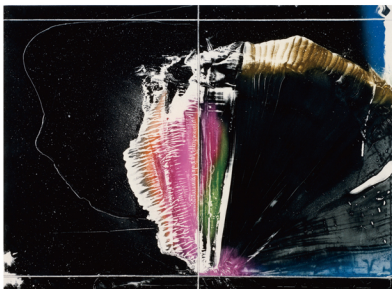
池田満寿夫 《サイズはサイズ》 1963年
ドライポイント・エッチング 35.5×33.5 cm



清宮質文 《夢の中へ》 1983年
木版 15.7×6.8 cm



中村忠二 《青い星の下で》 1959年
モノタイプ 26.5×25.3 cm



加納光於 《凹版刷—Intaglio をめぐる No.12》 1984-85年
カラー・インクリノ 41.4×56.0 cm

2005年夏、筑波大学は株式会社図書館流通センター代表取締役会長(当時)、石井昭氏から80余点の美術品を受贈しました。日本近代の作家たちによる絵画や、中国・朝鮮・日本の近世陶磁器などからなる同氏寄贈の美術品は2010年の夏に200点を超え、現在にいたっています。筑波大学では芸術系の教育研究組織を中心に、この「石井コレクション」を重要な学術的資源として活用しています。

石井コレクションは、その一部が筑波大学メインキャンパスの大学会館内にある「筑波大学ギャラリー」で常設展示されているほか、毎年1回、同館内の「アートスペース」における「特集展示」で公開されています。また、2011年度には茨城県陶芸美術館と武蔵野市立吉祥寺美術館でそれぞれ陶磁器約100点と版画・水彩など約50点による展覧会が開催されるなど、学外でも積極的に展示されており、国内外の美術館における企画展にも随時出品されています。さらに、芸術系の研究組織では石井コレクションに含まれている作家と作品に焦点を当て、美術史・美術制作者・絵画修復家などの専門家による研究会を企画開催し、これまでに英九と国吉康雄に関する研究成果を取った「石井コレクション研究」を刊行してきました。2013年度は、藤田嗣治の作品についての研究会が予定されています。